

主題	JUST DO イブニングレク
副題	業務優先から利用者様優先の意識を持ち毎日を楽しむ生活を送ろう
レクリエーション	業務改善

研究期間	12ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム リバーサイドグリーン
発表者：佐藤 健太（介護士）		アドバイザー：鈴木隆也（機能訓練指導員）	
共同研究者：×			

電話	03-3677-4611	メール	daycare@kotoen.or.jp
FAX	03-3677-4655	URL	http://www.kotoen.or.jp

今回発表の事業所やサービスの紹介	東京都江戸川区江戸川1-46 私達の施設は特別養護老人ホーム(定員50名)の他に養護老人ホーム、老人デイサービスセンター、保育所、障害者福祉施設等が併設された0歳~101歳までの方々が一つ屋根の下で大家族のように交流し、生活している明るく元気ある施設です。
------------------	---

《1. 研究前の状況と課題》

介護度が年々上がり(現在は要介護 4,22)、それに伴い日常生活動作も低下し、職員は三介護の支援が中心となってきた。

当施設は現在、経験の浅い職員が多く、基礎知識が乏しい職員も増え、介護力も低下してきている。

食事・排泄介助等の業務が増える事で、直接援助に時間がかかり、1人ひとりに掛ける時間は少なく、利用者様は日々テレビを見て過ごす等、それぞれが楽しみのある生活を送る事が困難になり、利用者様優先でなく、業務優先の生活へと変化してきており、特養でのレク活動が少なく、利用者様が楽しめる生活を提供する取り組みや意識が低下している。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

レク活動をイブニング(夕方)に行う事で、入浴等もなく全員参加ができ、起床時・食後・就寝前とは違い、身体が一番活発に活動する時間帯であり、身体的・精神的に活性化を促す効果が考えられる。楽しみのある生活を送る為の一つとして、レク活動の参加が挙げられる。活動により認知症の予防、機能維持・向上に繋がるのではないかと。又、日常生活動作の低下が予防される事で、職員も身体援助の時間が減り、一人ひとりと関わりを持つ時間が持てるのではないかと。業務優先から利用者様が楽しめる空間づくりへ力を入れられ、職員・利用者様共に楽しめる様な施設生活を目指していく。

《3. 具体的な取り組みの内容》

【時間の選定】

- 平日の 16 時 30 分～17 時 30 分の 1 時間レク活動を毎日行う。
- 排泄時間の見直しを行う。

【頭の体操】

- 日付の確認、自己紹介等

【準備体操】

- 身体をほぐす運動

【レク活動】

- 風船バレー・ボウリング・ボール入れ
- どの職員でも出来る様に物品の準備、利用者誘導の配置図のマニュアルを作成。

【口腔体操】

- 最低限行う内容を表に記載

【記録】

- レクノートを作成し、実施状況を記載する。失敗したと感じる事を繰り返さず、良かった事を継続して行っていく。

《4. 取り組みの結果と考察》

始めはレク活動への意識が少なく、月に 4 回と少なかった。実施しない理由として、業務負担となっており、実施しようとする事が少なかった。その為、担当介護士・機能訓練指導員を中心に実施する事で少しずつ周りの職員が興味を持つようになった。マニュアル作成したが、それ以外に頭の体操の中で誕生日、退院、入園の紹介を行う様になり、楽しめる様になっていった。レク活動の物品を準備した事で当初マニュアル作成したレク活動以外のレク活動を考える事や、レク活動の時間以外にも空いた時間を見つけ、積極的にレク活動を行う場面も見られる様になった。

職員もレク活動を行う事に恥ずかしさがあったが、毎日行う事で慣れ、職員も楽しめる様になった。又、経験年数の少ない職員も、実施する事で慣れはじめ、実施回数が月 18 回へ増加した。

開始当初は意識が低かった職員だが、レク活動周知後にアンケートを行うと職員満足度は高く、毎日行って良かったと全職員が答えた。

《5. まとめ、結論》

始めはレク活動の必要性を訴える職員と業務優先の考えを持つ職員の意見が対立し、実施する事が出来なかった。しかし、担当者がレク活動を積極的に行う事で少しずつ理解が生まれ、職員が集まり、実施する様になった。

又、毎月会議を行い、勤務帯の反省会で話す事で興味、意識が高まり、レク活動に対して意欲的ではない職員も興味をもつ様になっていった。

毎日実施する事で、利用者様から自発的にレク活動の時間になると集まる事や、活動を好まない利用者様も楽しみを持つ事ができた。又、利用者様だけでなく、職員も楽しみ、頭の体操時に行事、季節の話し等だけではなく様々な話題作りが出来る様になりコミュニケーション能力が向上した。

今後は忙しくなった時に実施困難や、新規職員への指導が課題となっている。集団でのレク活動を行う事が主であるが、能力が異なる為、個別性を活かす事も検討している。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

参考文献なし。

《8. 提案と発信》

当初はレク活動を行う事で、職員意識の向上や利用者様の楽しみを提供する事が目的であったが、実施していくに辺り利用者様の機能面向上や職員の意欲・やりがいに繋がった。以上の結果をもとに本研究は、レク活動により様々な場面に効果をもたらす事ができた。

【メモ欄】